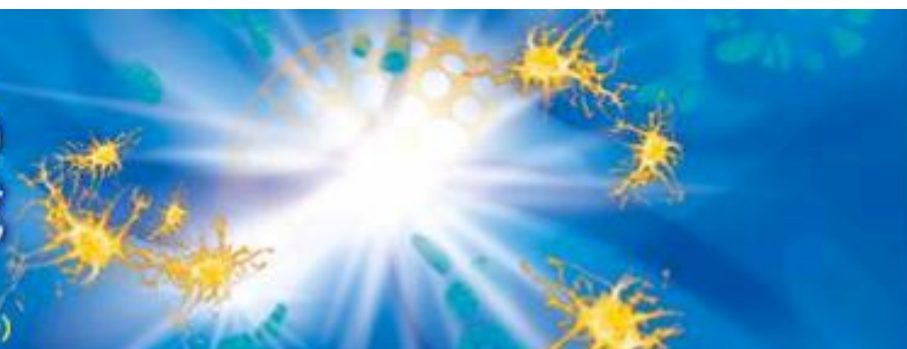




岡山大学 ナノバイオ標的医療の 融合的創出拠点の形成

ICONT (Innovation Center Okayama for Nanobio-targeted Therapy)



岡大 医学・医療の最前線

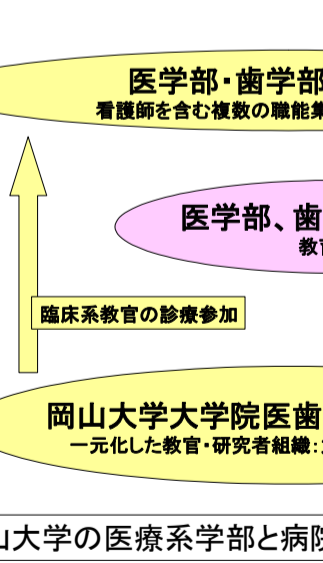
大学病院が担う医療の未来



公文 裕巳 (岡山
大大学院医歯薬学
総合研究科長)

ご承知のように岡山大学医学部・歯学部附属病院は全国屈指の歴史と伝統を誇る大学病院であり、歯科領域を含む全ての臨床領域においてトップレベルの医療を提供しています。また、国際的にも注目される高度先進医療を實踐するとともに、

学部・薬学部があり、さらにはその上部組織として大学院教育と研究を担う大学院研究科があります。医学・医療に限らず学問の細分化と高度化により、従来の大学学部教育のみでは進化・拡大する高等教育のニーズに答えきれないことから、日本の多くの大学が大学院化しつつあります。一般市民の方には非常に分かりにくい複雑な組織となつていますが、知的創造立国を目指す日本の教育改革の根幹として進行中



岡山大学の医療系学部と病院の新しい体制: H17~

岡山大学病院と大学院医歯薬学総合研究科

先進医療



高等教育



生命科学基盤研究の深化と新しい医療の創造

この紙面を借りて解説致しますと、2001(平成13)年からの大学院医歯薬学総合研究科から、05(平成17)年には大学院医歯薬学総合研究科として教員・研究者組織が二元化されており、研究科長が組織全体の長となつています。

兼任、併任が多いことも組織を分りにくくしている理由ですが、私のことで説明しますと、研究科長であるとともに、本籍は医歯薬学総合研究科病態制御学専攻泌尿器病態学分野教授であり、医学部泌尿器病態学教授(兼任)、附属病院泌尿器科科長(併任)、附属病院遺伝子・細胞治療センター長(併任)というこ

とになっていきます。医学部をはじめ科学の全

「岡大発 医学・医療の最前線」という話題をこれからシリーズでお届けすることになり、初回ということとで前置きが長くなりました。岡山大学はこの組織改革とともに04(平成16)年の法人化に伴い、大きく変ほうを遂げつつあります。

特に、新しい医療の創造という観点から、研究の成果を産学官連携の強化により、出来るだけ早く臨床の現場に還元する体制を整えています。現在、日本の科学技術政策は内閣府の総合科学技術会議が中心となつて決定されており、06(平成18)年からの最重点課題として先端融合領域イノベーション創出拠点の形成事業が国策として推進されることになりました。

高齢化日本の宿命であるがん医療における革新的医療技術として、「細胞レベルで悪いところを見つけ、優しく治す」ことの実現を目指していきます。10月24日には岡山で新拠点形成シンポジウムを開催する予定であり、次回はその内容を解説します。

領域で9拠点の選定ということで競争はし烈でしたが、「遺伝子・細胞治療を中心とする先端医療開発の実績などが評価され、岡山大学が提案した「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点」の形成が採択されました。協働企業・社とともにこの事業を展開し、「がん細胞だけを狙い撃ちする標的医療を開発していくこと」になります。

岡山大学は、2001(平成13)年からの大学院医歯薬学総合研究科から、05(平成17)年には大学院医歯薬学総合研究科として教員・研究者組織が二元化されており、研究科長が組織全体の長となつています。